令和３年度・令和４年度における市内小学校の教員によるいじめにかかる報告書に基づいた令和５年度の取組と成果について（報告）

野洲市教育委員会と学校が取り組んできたこと、今後取り組むこと

令和６年３月１９日

野洲市教育委員会

1　はじめに

令和３年度、令和４年度に本市小学校で起こしてしまった教員によるいじめ事案２件は、児童生徒のみならず、保護者や地域の皆様に大きな不安を与え、本市の学校教育への信頼を著しく損ない、全国から多くの非難や批判を受けました。

野洲市教育委員会は、２つの事案を丁寧に分析、課題を洗い出し、当該教員、当該校だけでなく、市内全小中学校、野洲市教育委員会全体の問題として捉え、令和５年２月１日に報告書を公表するとともに再発防止策を策定しました。

この再発防止策に基づき、小中学校９校、野洲市教育委員会で今年度取り組んできたこと、引き続き取り組んでいくことについてまとめ、報告します。

2　再発防止にむけた取組

（１）組織対応の再構築について

（ア）報告体制の構築

校内→市教委　報告システムの構築と徹底

不十分であった校内報告体制を各校で見直し、校内報告システムを小中全９校で構築した。いじめ等の重大事案については市教委へ迅速に文書報告することを徹底した。

（例）事案発生時、担任→学年主任→生徒指導担当等→教務主任→管理職→市教委へ迅速に報告

野洲市教育委員会→市長部局　報告システムの構築と徹底

市教委においても管理職による課題の抱え込みが問題であったことから、今年度は事案が発生したときには即、教育長、教育部長、教育部次長、学校教育課参事で情報共有、今後の対応方針を決めてから組織的に対応することを徹底した。重大な事案については、市長、副市長に教育部長が迅速に報告した。

（イ）相談体制の構築

校内 0JT 組織の構築

全小中学校９校で、校内 0JT 組織（学年会、教科部会、ベテランと若手教員グループなど）をつくり、学び合いや相談体制を整えた。

福祉の視点等、教員とは違う視点を加えた相談体制

スクールカウンセラー（県費６名）、スクールソーシャルワーカー（県費１名、市費６名）、スーパーバイザー（市費１名）、オアシス相談員（市費３名）に関係機関も加え、福祉の視点等、教員の視点だけでなく違う視点を加えた相談支援体制を整えた。

スクールロイヤー（弁護士）の配置　法に基づいた組織的な対応

いじめ、虐待、法令に基づく対応等について、今年度から配置されたスクールロイヤーと呼ばれる弁護士（市費１名）に法務相談ができる体制を整備したことにより、教職員が法に基づいた迅速かつ組織的な対応ができるようになった。

※令和６年３月１９日現在　延べ３０回（１１１０分）相談実施

（ウ）情報収集体制の構築

市費県費支援員７７名、家庭教育支援員５名や地域との情報共有

管理職や教員が定期的に校内を見回るだけでなく、特支多人数アシスタント（県費４５名）、支援員（市費３２名）、家庭教育支援員（おやこサポーター）（市費５名）、地域の皆様等との定期的な情報共有に努めるなど情報収集体制を構築、強化した。

（２）学校でのチーム力の育成について

（ア）同僚性について

同僚性、心理的安全性の高い職員室

しんどい立場の教職員の SOS を把握できるように、日頃から管理職等が積極的に声掛けをした。さらに、管理職等が率先して自らの失敗や苦労したことを自己開示したり、学年 OJT や教科部会等で悩みや喜びを語り合ったりしながら、同僚性、心理的安全性が高い職員室づくりに努めた。

（イ）複数指導体制の構築

中学校の複数指導体制　ー教科担任制、学年団、学年フロアでの見守りー

中学校３校は、教科担任制であるため複数の目で子どもを見守る学年団体制が基本的にできている。加えて休み時間や昼食時、学年フロアで教員が見守り、支援する指導体制も全教職員で作りだしている。今年度から、地域の皆様に給食時間等に見守り協力をお願いしている学校もある。

いじめ重大事態の当該校は、毎週いじめ防止対策委員会を実施し、関係機関からの助言を得ながら、取組の計画、実施、検証、改善、引継を現在も行っている。被害生徒についての見守りも複数体制で引き続き実施している。

小学校の複数指導体制　ー教科担任制の導入、学校に地域が入った見守りー

小学校６校においては、英語や理科、算数などで教科担任制を導入した。また、入授業や交換授業も実施し、複数の目で子どもを多角的にみる指導体制を整備した。さらに、給食・掃除・道徳について担当を変えるローテーション指導、休み時間や昼食時に地域・保護者に見守ってもらう等の体制を一部の学校では取り入れている。なお、上記の複数指導体制の構築に当たり、特支多人数アシスタント（県費４５名）、支援員（市費３２名）、親子サポーター（市費５名）等は欠かすことのできない存在である。

（ウ）管理職のリーダーシップについて

学校支援員（市費２名）による管理職への支援

今年度配置された学校支援員（市費２名）が、管理職が自校の教職員集団の同僚性を高めることを目的にリーダーシップをとってマネジメントができるよう、定期的に学校を訪問し、点検・確認・改善指導を続けた。さらに、管理職が課題を一人で抱えることがないよう、悩み相談も同時に行ってきた。

スクールロイヤーから管理職への助言　－自信をもって対応可能に－

スクールロイヤーに相談して法的な判断を含め各校管理職が助言指導をもらえるようになったことで、管理職は課題を抱え込むことなく、法に基づいた迅速かつ組織的な対応が自信をもってできるようになった。

（3）教職員の資質向上について

（ア）人間力を高めていくために

事案を基に学ぶ　－自分ごととして捉えた再発防止研修－

一昨年度、昨年度の教員によるいじめ事案、４月に発生したいじめ重大事態事案、５月の教員不祥事事案について、自分ごととして捉えた再発防止研修を全学校で実施した。

教員としてではなく、まず一人の人間として順守すべきことを確認

令和５年８月８日の管理職研修では、野洲市のスクールロイヤーを招いて「いじめ防止研修」、守山警察署交通課課長を招いて「飲酒運転撲滅研修」を実施、保幼小中管理職全員で学び、まず一人の人間として順守すべきことを学んだ。

滋賀県教育委員会作成「人権感覚向上シート」による定期的なチェック

学期に１回は、県が作成した「人権感覚向上シート」を活用し、教員一人ひとりが日々の教育活動を振り返り、自分の人権感覚を確かめる機会をもっている。各校で結果を分析し、学校改善、教員の人間力向上につなげるよう工夫している。

（イ）「障がい」の問題と向き合うために

支援、就学指導の流れを全教職員で共通理解　－担任だけで判断しないー

各校で月１回、子どもを語る会、生徒指導支援委員会等を実施し、児童生徒の見守り、支援について共通理解する場をもっている。また、全教職員で支援が必要な児童・生徒について共通理解を図るとともに、指導と支援について検討したり、就学指導の流れ（担任だけで判断せず校内委員会でまず検討する等）を確認したりしている。

保護者とともにつくる障害理解研修　－疑似体験をとおしてー

保護者会の協力のもと、疑似体験を通して障害理解を進める教職員研修を特別支援教育コーディネーター対象に実施し、各校で伝達講習をすすめる予定。次年度は全教職員にも広められるよう工夫して実施予定。

保護者とともにつくる「サポート共有シート」－ニーズに合わせた支援－

初任者でも具体的な支援が実施できるよう、保護者会と市教委指導主事、発達支援センターで協働して「サポート共有シート」を作成、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援のポイントを明示した。次年度、個別支援計画・指導計画を作成するとき、保護者のニーズを把握するとき、教室環境を整えるとき等に活用予定。

滋賀県教育委員会作成「授業づくりヒント集」の活用　－支援のヒントー

滋賀県作成の冊子「特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集」を参考に、特別な配慮を必要としている子どもたちの理解と授業における支援のヒントを得ている。

教職員ができること　ー学び続けること、謙虚に誠実に耳を傾けることー

令和５年８月８日の管理職研修会で実施した特別支援教育に関する研修動画（現職校長による講義　「教職員のあるべき姿について」①学び続けること②子ども・保護者の思いに謙虚に誠実に耳を傾けること③自分の至らなさに目を向けること）を各校での研修に活用している。

（ウ）教職員としての使命感を高めていくために

学校運営協議会を全小中学校で設置　ー学校・家庭・地域、みんなでー

学校運営協議会を小中全９校で設置、家庭や地域が学校運営に参画していくことで、教職員の意識が変わり「学校・家庭・地域、みんなで子どもを育てていく」使命感が高まった。

（４）市教育委員会の対応力を高めるために

組織全体への迅速な情報共有、組織的に対応　ーー人で抱え込まないー

昨年度、野洲市教育委員会において管理職による課題の抱え込みが問題であったことから、今年度は事案が発生したとき、保護者から教育委員会に直接訴えがあったときは即、教育長、教育部長、教育部次長、学校教育課参事で必ず情報共有し、今後の対応方針を決めてから教育委員会内で情報を周知、学校だけに対応を任せるのではなく、専門員も含めて学校と共に組織的に対応した。

迅速かつ誠実な保護者対応　ー対応途中の経過報告も忘れずー

保護者からの訴えについては、時間を置くことなく迅速かつ誠実に対応し、学校と保護者の関係性が維持できるよう努めた。問題がすぐに解決しない場合は途中経過を確認しながら必要に応じて保護者に経過報告することに心がけた。

専門家への相談、助言や指導を生かした丁寧な対応

いじめ、虐待、法令に基づく対応等重大な事案については、スクールロイヤーやスクールソーシャルワーカー、守山野洲少年センター、警察機関等、専門家に相談、助言や指導を仰ぎ、迅速かつ丁寧な対応をし続けた。

不祥事を深く反省し、包み隠さず迅速に公表する姿勢

昨年度「市教委の隠蔽体質」を何度も問われたことを真摯に受け止め、４月の「市内中学校においてのいじめ重大事態」、５月の「教職員による飲酒自損事故」などの不祥事についても深く反省し、迅速に公表、誠実な事後対応に努めた。

（５）市長部局との連携について

命や人権に関わる重大な案件は市長、副市長へ必ず報告

昨年度、命や人権にかかわる重大な案件は市長部局との連携が必須であることにもかかわらず市長への報告がなされていなかったことを深く反省し、今年度は命や人権にかかわる案件については市長、副市長へ必ず報告した。合わせて関連する部局や外部関係機関にも情報共有を行った。

3　過ちを繰り返さないために　～今後の取組～

家庭・地域に協力を仰ぎ、ともに子どもを育てていくこと

①家庭･地域と協働して学校をつくっていくために､学校は保護者や地域のおもいを傾聴し、誠実に対応する姿勢を持ち続けること

②学校運営協議会（コミュニティ･スクール）を定期的に開催、おやこサポーターを増員するなどしながら、学校・家庭・地域がともに子どもを育てていく学校づくりを継続すること

教職員が学び続けること

①問題を風化させないため、事案を教材化したものを使って、毎年、年度初めに全小中学校で研修を実施すること

②毎年､年度初めに､全教職員で支援が必要な児童･生徒について共通理解を図るとともに、就学指導の流れを確認すること

③障害理解を進める教職員研修を毎年実施すること

④学期に１回､「人権感覚向上シート」を活用し、教員一人ひとりが自分を振り返り、自分の人権感覚を確かめる機会をもつこと

⑤一方で、教職員の業務が過重にならないよう、教育委員会と管理職は業務量を管理するとともに、働き方改革を今より一層すすめること

専門家の助言や指導も大切にする学校運営

①教員だけで判断せず、スクールロイヤー、スクールソーシャルワーカー、守山野洲少年センター、警察機関等の専門家の助言も大切にする姿勢を学校に浸透させること

②令和５年度から始めた「いじめ防止教室」について、令和６年度も滋賀弁護士会に派遣依頼、全小学校６校で５年生対象に実施し、いじめは命を奪いかねない犯罪行為であり人権侵害行為であることから、絶対に許されないことを子どもも教員も学ぶこと

学校支援員によるチェック機能

①全小中学校９校で上記の取組が遅滞なく実施できているか、チェックシートを用いて学校支援員が必ず学期に１回は学校を訪問し、管理職からの聞き取りを実施すること

②重大な事案が発生した学校については、学校支援員が学校を訪問し事案の聞き取り確認をすること

③継続的に指導や支援が必要な学校については、重点的に訪問すること、合わせて未解決の事案がある学校については、経過を確認すること

4　最後に

私たち野洲市の教職員は、子どもたちの人権を何よりも大切にして、毎日誠実に教育に取り組んでいきます。野洲市教育委員会としても、子どもたち、保護者、地域の皆様から一度失った信頼を取り戻すため、上記の取組を次年度以降も継続していきます。

今後も、市民の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申しあげ、取組の報告とします。